

幼稚園の 子どもたち



ぼくのいえのお風呂には、おもちゃはないけれど、ぼくとおねえちゃんとおばとはいるとおしゃべりしたり、てをつかってあそんだり すごくたのしいので、だいすきです。

▲さかい けいとさん (西山台幼稚園 年長)

※図画作品の年齢は制作当時のものです。

●年間テーマ「親学ノススメ」 ●今号テーマ「命について考えよう」

親学 ノススメ

うさぎのはなちゃん天国へ

滝子幼稚園 酒井 理江

本園では、うさぎを2羽飼育していた。年長児が園を代表して小屋の掃除等の世話をしている。初めはウンチが汚い、触りたくない、率先して世話をする姿は見られなかった。

そこで、クラスでうさぎたちを世話する意味について話し合う時間を作った。「みんなにはお母さん、お父さんがいてご飯を用意したり、お家の掃除もしてくれたりするよね？幼稚園のうさぎさんはどうだろう？」と問いかけると「うさぎさんにはお母さんがいない」「自分たちがうさぎさんのお世話をしなくちゃ!」という言葉が出てきた。翌日から、うさぎの世話をする子どもたちの態度に変化が見られた。うさぎ小屋に手を入れるのを怖がっていた子にも「ごはんを換えなくちゃ!」とたくましい姿が見られ、トイレ掃除を避けていた子も「きれいにしてあげるんだ!」と自ら進んで掃除するようになり、自覚と責任感をもって当番活動に取り組むようになった。

そんな夏のことである。幼稚園に来て9年になるうさぎ

のはなちゃんが、加齢による衰弱で体調を崩した。毎日薬を飲みながら過ごす姿を間近で見て、子どもたちもとても心配していた。はなちゃんは日増しに痩せ細り、よだれが垂れ流しの状態になっていった。子どもたちはその姿に驚きながらも毎日ご飯や掃除を忘れず、一生懸命に世話をし続けた。

10月下旬のある朝、はなちゃんが寝たきりになっていた。子どもたちにその様子を伝えるとすぐにはなちゃんに駆け寄り、「頑張ったね!」「まだ息はしてるよ!」と声を掛け、優しくなでた。衰弱の意味を子どもたちに伝えると涙を流した。死が間近の姿は子どもたちにとって衝撃的だったが子どもたちはそれぞれの心で受け止めていた。その日、子どもたちの降園後にはなちゃんは息を引き取った。

うさぎの世話を通して、動物にも自分たちと同じ命があり、必ず死があることを学んだ子どもたち。命の尊さを知る経験を通して自他を大切にできる心が育ってほしいと願っている。

家庭の日 図画作品



なつやすみにくるまでおでかけをしました。そのとちゅうでおおきなにじを みつけました。たくさんあめがふりだしてしんぱいだったけど、にじをみることでできてとってもうれしかったです。

▲たけしま みうさん (比良西幼稚園 年中)



おかあさんとふたりでおさんぽにいきました。むしさがしをしたときに、おおきなきに、かぶとむしがいるのを みつけました。すぐにおおきくて、びっくりしました。

▲むらせ りこさん (慶和幼稚園 年長)

※図画作品の年齢は制作当時のものです。

動植物にふれる経験を通して

楠西幼稚園 園長
北浦 賢

本園は、名古屋市の北端にあり、園の周りには田畑が多く残っています。そのため、たくさんの昆虫や鳥など季節に合わせていろいろな生き物の姿を見ることができたり、声が聞こえたりして、自然を感じることができます。

春から夏にかけて芝生の園庭では、虫取り網を持った園児がチョウやバッタを捕まえようと走り回っています。「チョウさん待って」「なかなか捕まらないな」と園児たちは捕まえようと夢中で追いかけます。「やったー、捕まえた」という声とうれしくてたまらない園児たちの笑顔が見られます。

虫取り網から恐る恐るチョウやバッタを触ろうとしますが、うまく捕まえられません。でも、虫が大好きな友達が上手に捕まえると、「どうつかむの」とつかみ方を教わることでつかめるようになっていきます。

虫かごに入れて捕まえた昆虫の観察が始まります。「羽の模様は…」「足の形は…」と図鑑を片手に昆虫の名前や体の様子、エサ、飼い方など様々なことを調べます。

アゲハチョウがさなぎからチョウに変わる様子を見ながら、「頑張れ」「あと少し」「すごい」と声援を送る園児がいます。また、育てていたトノサマバッタが動かなく

なるのを目の当たりにして、「バッタさん死んじゃったー」と涙を流す園児もいます。それを見ていた友達が「お墓をつくろう」とバッタの墓を花壇の隅につくり、一緒に手を合わせる姿が見られます。

このような営みが自然への関心や親しみ、生き物に対する温かみを育むと考えています。生き物の誕生や死を通して少しずつ命の尊さや大切さ、そして生と死を受け止めることについて、幼児なりに気付いていきます。

幼稚園では、動植物との様々な触れ合いを通して、命を大切にしようとする心を育んでいきたいと思えます。



みんなを大切にできる心

滝子幼稚園 保護者
金松 陽子

私には4人の子供がいます。

末娘が生まれる時には、上の子たちも楽しみに待ち望み、無事に誕生した時には皆で喜びました。人の誕生は嬉しい一方で死は…。

しばらくして隣に住む親戚のおばあさんが亡くなりました。私達を孫やひ孫のように可愛がってくださった人でした。

今まで会えていた人に会えなくなって寂しがる子どもたちと、おばあさんとの思い出話をしました。

「いつもお菓子をくれた!足が速いとほめてくれた!優しい言葉をかけてくれた!」

私達を愛してくれたことばかりが思い出されました。

「死んだらどうなるの?」

息子が突然そんなことを聞いてきました。

難しい話だと感じましたが、何か一つでも心に残るものがあればと思い、話することにしました。

「良いことをした人は天国に行くんだよ。さっきのおばあさんの思い出話の中でもあったように、優しくしてもらったこと、人のために生きたことがみんなの心に残るんだよ。死んでしまったらお金やお家は持っていけないの。だからどのような人になったらいいかわかる?」

とたずねました。すると、「お友達に優しくする!」「弟や妹にお菓子を分けてあげる」

子どもたちも一生懸命考えて答えてくれました。

そこで、「兄弟姉妹仲良く、お友達に優しくできる人になってほしい。周りのために生きて人を大切に思い、人から愛される大人になってほしい」とパパとママは願っていると伝えました。そんな大人になってもらうには、親である私がたくさん愛情を伝え、自分も人のために生きる姿を見せていかなくてはとも思いました。大切な人の死をきっかけに、私も子どもたちもどのように生きたら良いのか考える機会となりました。



子育て Q&A

Q

子どもが好ましくない行動をとると、つい大きな声で注意したり、慌てさせたりしてしまう。どのように対応するとよいか。



子どもが好ましくない行動をとったときに怒ってばかりでは、子どもは「怒られるからやろうかな」と仕方なく言われたことをやったり、「また怒っているな」と気にしなくなったりするでしょう。子どもの言葉、行動にはその子なりの思いがあります。まずは、その思いを受け止めることが大切です。そして、なぜいけないのか、どうするとよいかを考え、自分で「こうしてみよう」と主体的に行動できるようにする必要があります。

失敗の経験は学びにつながります。「失敗しないようにどうにかしなくては」と焦らず、お子さんに失敗をさせてあげてください。失敗したときには、「だから言ったでしょ」と責めるのではなく、「どうしてだろうね」と一緒に悩んだり、解決策を一緒に考えたりしていただきたいです。時にはどうしたらできるかをお子さんに聞いてみたり、ルールが必要であれば、一緒に考えて作ったりしてみるのもよいでしょう。

「あなたがそのようなことをすると、お母さん（お父さん）は悲しい」というお家の方の思いも伝える

とよいです。子どもは、大好きな家族に喜んでもらいたいものです。以前と比べて

少しでも変化があったときには、見逃さずしっかりと認めてあげましょう。そして、「あなたが〇〇できるようになってうれしい」等、ご自身の素直な喜びの気持ちをお子さんに伝えてあげてください。

その積み重ねで、子どもは少しずつ自分で考えて行動できるようになるとともに、自分が大事にされている、愛されていると感じ、自分を大事にするようになります。そして、家族や友達など、周りの人のことも大事にできるようになっていきます。最近、テレビ等で報道されているような、自分や人を傷つける悲しい事件が起こらないように、人格形成の土台を培う幼児期に、自分は愛されていてかけがえない存在であることを、しっかり実感できるようにしていきましょう。

名古屋市教育委員会 指導室

こんなほん あんなほん 「かけがえのない命」

『あかちゃんのゆりかご』

レベッカ・ボンド／作
さくまゆみこ／訳
偕成社



祖父母や両親やお兄ちゃん、生まれてくる赤ちゃんのために、家族総出で素敵なゆりかごをこしらえました。贈り物に込められたたっぷりの愛情が、人物たちの表情からも伝わってきます。

『おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん』

長谷川義史／作
BL出版



おじいちゃんのおじいちゃん、どんなひと？そのまたおじいちゃんのおじいちゃん、は…？先祖を遡ることで、命のつながりを自然に認識することができる、たのしい絵本です。

『いきものちえくらべ』（いきものみ一つけた）

海野和男、中村庸夫／ほか写真
嶋田泰子／文
童心社



虫や魚の中には、自分の命を守るために強い生き物を真似したり、別の生き物の力を借りたりしながら暮らすものがあります。小さな生き物にも命があることを、写真を通して実感できます。

私の命 あなたの命

昨今、子どもの命をめぐる悲しい事件が続いています。機会をとらえて、ご家庭でも親子で命の大切さについて考えてみましょう。

兄弟姉妹が少ない現状、子どもたちが命の誕生に立ち会う機会は稀なことかもしれません。定番の『あやちゃんのうまれたひ』（福音館書店発行）など絵本を活用すると、愛情深く待ち望まれた命について、子どもに分かりやすく伝えることができます。子ども自身、「生まれてきてよかった」と自己肯定できることが、他者も大切にすると心の育成につながると考えられます。

物語絵本のほか、生き物の本も命の不思議さや驚きを伝えてくれます。生き物と触れあうなど実体験とあわせて、命を見つめ直すきっかけになるといいですね。

名古屋市鶴舞中央図書館
児童担当 中村・新藤・野崎・前田

TEL:052-741-9811 FAX:052-733-6337

施設紹介 東山動植物園

動物園には人気動物がたくさん！小さなメダカから大きなゾウまで飼育数は日本一。多種多様な動物たちを観察することができます。

イケメンゴリラで話題のシャバーニが暮らすゴリラ・チンパンジー舎、ゾーシウム（アジアゾウ舎）やコアラ舎など多様な展示施設があり、その生態や生息地の紹介など学習展示も豊富。楽しみながら学ぶことができます。

植物園では温室の中や丘陵地の自然林を利用し約7,000種の植物を展示しています。桜の回廊には約100種1000本の桜があり、春を彩ります。



.....施設概要情報.....

所在地 〒464-0804 名古屋市千種区東山元町3-70

休園日 月曜日(祝日の場合は直後の平日)、12/29~1/1

入園料 大人1人 500円(市内在住65歳以上の方は100円)
※中学生以下無料

アクセス 地下鉄東山線「東山公園」下車3番出口より徒歩約3分

問い合わせ TEL 052-782-2111
詳しくは、公式サイト www.higashiyama.city.nagoya.jp をご覧ください。

2~3月の
イベント

東山動植物園春まつり
(3/14(土)から5/6(水・振)まで)

飼育員によるアニマルトーク、絶滅危惧種やサクラを巡るラリーなど、多彩なイベントを実施します。

家庭の日 図画作品



なつやすみにかぞくで やまへきゅんぱに いきました。おとうさんといっしょに だいきなばつたと くわがたととりました。かぞくがふえてとともうれしいです。

▲すがぬま なおやさん (高田幼稚園 年中)



おほんに おじいちゃんとおばあちゃんのおうちへ あそびにいきました。ひろいおにわでおおきなぶーるで みんなであそびました。おみずは つめたかったけど たのしかったです。

▲おおつか しょうきさん (第一幼稚園 年少)

※図画作品の年齢は制作当時のものです。

編集後記

保護者の皆様や編集委員の皆様のご協力を得て、今年度の「幼稚園の子どもたち」NO.3を発行することができました。ご協力ありがとうございました。

今号は、「命について考えよう」をテーマに取り組みました。

子どもが自らの命も友達の命も大切にしようとする心を育てるには、親から愛されているということに気付かせる体験が大切になってきます。また、家庭や幼稚園で、弟妹の誕生や、飼育している生き物、植物との関わりを通して、命の大切さを感じ取っていくことができると思います。

子どもたちが自他ともに命を大切に、心豊かに成長していくことを願っています。

今年度も皆様のご協力を得て、年3回の「幼稚園の子どもたち」の発行ができたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。

長らくご愛読いただきました「幼稚園の子どもたち」は、本号で最後となります。今後はパンフレット「親学」と統合し、引き続き幼児期のお子さんをもつ保護者へ、親学の普及啓発を進めてまいります。皆様のご長年のご愛読に心から感謝申し上げます。

●担当／生涯学習課社会教育係
電子メールアドレス
a3253@kyoiku.city.nagoya.lg.jp

この印刷物は、古紙パルプを含む再生紙を使用しています。

手をつなごう 心もつなごう 家庭の日

毎月第3日曜日は家庭の日



家庭は、私たちの生活の基盤であり、家族の心のよりどころです。

子どもは、家庭における家族との会話やふれあいを通して、基本的な生活習慣を身に付け、豊かな心を育てていきます。

市では、家庭の役割や大切さを考える機会としていただくため、毎月第3日曜日を「家庭の日」と定め、「家庭の日」をテーマにした図画・ポスター作文募集などの普及啓発事業を行っています。

「家庭の日」の詳細は、名古屋市公式ウェブサイトに掲載していますので、ご覧ください。(http://www.city.nagoya.jp/から「家庭の日」で検索)

1月11日(土)に、イーブルなごやで「ファミリーデーなごや」を開催しました。多くの方に来場いただき、盛況のうちに終えることができました。ありがとうございました。

お問い合わせは 教育委員会生涯学習課 (TEL 972-3253) まで